

天[×]稟(テンピン)稟^{ヒン}は稲を囲いおく所が本

義だが“受ける”の意に仮借される。

天から受けたもの。つまり“天性”。

添[×]付(テンプ)書類などに、ある物を添えること。

貼[×]付(テンプ)写真などを書類にはりつけること。正しくは“チョウフ”と読む。

顛[×]末(テンマツ)顛は頭の頂。初めから終わりまでの意で、“事の一部始終”全体の有様。

天[×]佑(テンユウ)佑も佐も“助ける”。左手は右手を助け、右手は左手を助ける。“天佑神助”天の助け、神の助け。

偷[×]安(トウアン)偷^{トウ}は盜^{トウ}(ぬすむ)。安きをぬ

すむの意で、将来を思わず安楽をむさぼること。

統[×]括(トウカツ)統は一つにまとめる。括はくくる。ばらばらのものをまとめて一つにくくること。

投[×]函(トウカン)函は箱。箱に入れるの意で、郵便物をポストに入れること。

騰[×]貴(トウキ)騰は宿場馬が本義。登の意に使う。値段の上がることを言う。

刀[×]圭(トウケイ)薬をもるさじのことで、医術の意に用いる。医者のことを“刀圭家”と言う。

憧[×]憬(ドウケイ)あこがれ。正しくは“ショウケイ”。

踏[×]查(トウサ)現地を踏^ふんで調^へ査する意。

洞[×]察(ドウサツ)洞はほら穴、突き抜ける意を借りて、“見抜く”こと。察は注意して見ること。

透[×]写(トウシャ)透は通り抜けるが本義で、すきとおる意に使う。すき写し。

謄[×]写(トウシャ)謄は言(ことば)を重ねる。原本のままを写し取って、同じ文のものを重ねて作ること。できたものを“謄本”と言う。

踏[×]襲(トウシュウ)襲は重ね着が本義。くり返す意を借りて今までのやり方をそのまま踏^へんでくり返すこと。

淘[×]汰(トウタ)不用・不適のものを排除すること。生存競争により環境に適應しない種が死滅し適應するものだけが残ること。